問題　次の資料を読み，以下の設問に答えなさい。

資料 1

昨年の夏，あるシングルマザーの方から，こんなお話を聞いた。

息子が突然正座になって，泣きながら「サッカーがしたいです」と言ったんです。

それは，まだ小学生の一人息子が，幼いなりに自分の家庭の状況を理解し，ようやく口にできた願いだった。たった一人で悩んだ末，正座をして，涙を流しながら。私が本書で考えたい「体験格差」というテーマが，この場面に凝縮しているように思える。

私たちが暮らす日本社会には，様々なスポーツや文化的な活動，休日の旅行や楽しいアクティビティなど，子どもの成長に大きな影響を与え得る多種多様な「体験」を，「したいと思えば自由にできる(させてもらえる)子どもたち」と，「したいと思ってもできない(させてもらえない)子どもたち」がいる。そこには明らかに大きな「格差」がある。

その格差は，直接的には「生まれ」に，特に親の経済的な状況に関係している。年齢を重ねるにつれ，大人に近づくにつれ，低所得家庭の子どもたちは，してみたいと思ったこと，やってみたいと思ったことを，そのままま っすぐには言えなくなっていく。

私たちは，数多くの子どもたちが直面してきたこうした「体験」の格差について，どれほど真剣に考えてきただろうか。「サッカーがしたいです」と声をしぼり出す子どもたちの姿を，どれくらい想像し，理解し，対策を考え，実行してきただろうか。

私たち，日本社会で生きる大人たちの多くは，子どもたちにとっての「体験」の機会を，いまだ「必需品」だとは見なしていないのだろう。阿部氏の調査[1)]では，泊まりの旅行，スポーツ，音楽活動への参加などについて，「あったほうがよいが，持てなくても，いたしかたがない」，「必要ではない」という回答が大多数を占めている。

もちろん日本でも，自分自身の子どもに対して様々な「体験」を与えたいと願い，

encounter one another, whether in health clinics or in public transportation or in public parks and recreation areas, municipal facilities, public libraries, sports stadia even. This inadvertent class mixing can create habits, attitudes, dispositions that remind us of our commonality. And so that's part of any project of creating a more equal society, even before we get to the tax rates, which I agree with you are essential. We have to create public places and common spaces that bring people together from different walks of life, thát cultivate a sense of mutual responsibility and belonging.

出典：Thomas Piketty and Michael J. Sandel, (2025) *Equality: What It Means and Why It Matters*, Polity Press. p 78–79　一部改変

Note：

affluent　裕福な

secede　離れる

municipal　自治体の

inadvertent　無意識な

mutual　相互の

設問 1　資料 1 および資料 2 で述べられている「体験格差」について，それが生じる要因と解消され難い理由はなにか，400 字以内で説明しなさい。

設問 2　資料 3 の「格差が拡大再生産」していくメカニズムと資料 4 の格差がもたらす課題を説明した上で，自身の考えを 600 字以内で述べなさい。